

# 平成31年度事業報告

## 1 法人の概要

### 1) 沿革

昭和15年	12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年	4月1日	布施高等女学校開校
22年	4月1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年	4月1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年	2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年	3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年	4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年	4月1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年	1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年	1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更） 家政科設置認可を得、開学
41年	1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年	4月1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年	4月1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年	2月9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年	4月1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年	4月1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年	3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年	7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年	3月1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年	3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年	5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子 高等学校と改称
14年	4月1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザ イン専攻に名称変更
14年	12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大 学短期大学部と改称
15年	1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園 を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年	4月1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年	4月1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学 専攻を健康栄養専攻に名称変更 家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年	3月31日	家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年	3月31日	東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年	4月1日	健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更 健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止
23年	3月31日	健康栄養学科生活福祉専攻廃止
23年	4月1日	東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
28年	4月1日	東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教 育学科を実践保育学科に名称変更
30年	4月1日	東大阪大学短期大学部介護福祉学科開設



## 5) 教職員の概要（令和元年5月1日現在）

	教 員		職 員		合 計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	0	0	10	10	20
東大阪大学	25	20	14	7	66
東大阪大学短期大学部	34	40	16	5	95
東大阪大学敬愛高等学校	44	11	7	3	65
東大阪大学柏原高等学校	49	13	11	7	80
東大阪大学附属幼稚園	18	0	5	5	28
合 計	170	84	63	37	354

## 2 平成31年度事業計画における進捗状況等

令和元年度（平成31年度）は、本校の教育活動をより多くの方々に知っていただくため、柏原市や八尾市・松原市・藤井寺市といった地元を中心に、地域への貢献や情報発信をていねいに行った。例年通り柏原市国際交流協会のイベントも本校で開催する予定だったが、各方面との調整が間に合わず実施できなかったのは非常に残念である。

また、全学年が新しい制服を着用する年度でもあり、近隣には爽やかな男子高校生という印象を与えている。

### 1. 教科指導法の研究・実践と基礎学力の向上

#### （1）教員の授業力向上に向けた授業研究の推進

本校生徒の課題でもある基礎学力の向上や自分の考えをまとめて発表・表現する力を育成することが、生徒のキャリアを保障する上での重要課題となっている。河合塾などの教員向け研修で授業スキルに磨きをかけた教員が校内で伝達研修を実施する場面も増えた。アクティブラーニングに続き、主体的・対話的な深い学び等、言葉だけが先行している感は否めないが、これらの考え方がこれからの社会を生きていくためには必要不可欠なことも事実である。



本校の生徒に応じた指導(わかる授業・興味関心を引き出す授業)方法を研究し、実践するために、平成26年度より継続している全教科(8教科8名)の研究授業と授業の公開(全教員)を10月下旬の1週間実施した。タブレットや電子黒板を

活用した授業展開は目新しくなくなり、オーソドックスな授業形態の中にゲーム性を加えることにより授業を活性化する工夫も見られるようになった。

大阪私立学校人権教育研究会の夏季研修会では、グループ学習的要素を取り入れたワールド・カフェという方法で分科会を主導する教員も現れた。多くの教員には「これらの授業が研究授業のための期間限定ではない」という意識が感じられた。

また、学園全体でもミドルエイジ研修が実施され、各校園で指導的立場になる人材の育成が図られた。今後も継続していきたい研修の一つとなった。

#### （2）基礎学力の向上と定着

基礎学力の向上は本校生徒にとって最も大きな課題である。アドバンストコースではほとんどの科目で習熟度別授業を実施、他のコースでも国語教養・数学教養・社会教養等を並列選択させた。少人数でも授業を開講し、きめ細やかな授業の推進に努めながら、積極的に選択した

生徒のモチベーションの向上を図った。徐々にではあるが、学力の向上・定着が感じられる。

学校設定科目「キャリア」で取り組んでいる基礎学力向上の実践は「SPI」の導入等軌道に乗りつつある。しかしながら、グローバル化を含め高校生に対する社会の要求は、そのハードルがさらに高くなっている。

本年度も保護者参観を5月(前年度アンケートから実施月を決定)に実施した。教員も生徒も程よく緊張する機会としても効果的であるように感じる。32人の保護者が来校し、うち1年が22人であり、入学後の様子が気になる保護者の心理が読み取れる。

### (3) 選択科目系列の発展的解消

令和元年度から調理系列とアニメ・イラスト系列は、それぞれ調理コース・美術コースへとコース化した。これら二つの系列は、生徒希望調査で常に定員があふれるニーズの高い系列(受験生のニーズもかなりあることが中学との情報交換の中で判明していた)であり、その受講生の半数以上がそれぞれの系列で学んだことを活かす進路決定をしていた。



初年度は調理コース15人、美術コース13人を1クラスに組込み、各コースの実習を表裏の時間割編成とした。中学時代に不登校を経験した生徒も多数在籍していたが、好きなことをしているという充実感から出席も良好であった。また、授業では、教員に対する注視率と作業に対する集中力がすばらしい生徒が集まってくれた。



## 2. 生活指導の徹底と生徒活動の充実

### (1) 挨拶・身だしなみ・時間厳守等「凡事徹底」を図るための教員の一致した指導

挨拶・身だしなみ等の「凡事徹底」については、重要な教育活動の一つである。制服の改定時にはネクタイの着用には賛否両論があったが、全生徒がネクタイ着用となった今年度も「だらしくネクタイを緩めている」等大きな乱れは見受けられなかった。

また、従来から、スポーツコースを中心とした本校生の挨拶には定評があるが、校内だけに限る場合が多く、校外での適切な挨拶と行動をどのような形で進めていくかを検討する時期にきていると感じる。年2回日本拳法部が協力しているJR柏原駅前でのティッシュ配付(交通安全週間の取組)時には元気な声で挨拶をしており、市民の方からお褒めの言葉をいただいた。

### (2) 「教育コーチング」のスキルを踏まえて粘り強い指導と実態に応じた柔軟な生活指導

ときには起きる生徒の問題行動に対しては、毅然とした態度で対応し、保護者への働きかけで理解を引き出した。令和元年度も指導案件の減少に向けて、教員間のみならず教員と保護者間の情報共有に心がけた。

指導案件総数については、年々減少している。内容を精査すると規範意識が向上している様子が見て取れるが、突発的に気持ちが昂る生徒の割合が増えている。

最近、学年が上がっても案件数は極端には減らない傾向がある。第1学年では案件数の4分の1以上が携帯電話、SNS関連のものであり、これらに関しては第2学年から「0」に近づいた。しかも、これらの事象は1年生の1学期に頻発している。したがって、新入生ガイダンスなど入学前から、生徒だけでなく保護者も含めて携帯電話・SNSに対する注意を喚起するような施策が必要となってきた。

### (3) 生徒会活動の充実を通して、生徒の主体的活動の育成

大阪北部地震や昨年度の台風21号による休校等、緊急連絡時の携帯電話の利便性が再確認されたのも大きな後押しとなった感があるが、生徒会役員の公約でもあった「校内への携帯電

話等持込許可」が実現した。文部科学省の指針変更を背景に、生徒アンケートや生徒指導部との話し合い・校長との面談等意欲的に活動した生徒会役員の貢献度は大きい。

柏原市によるイベントには、生徒会や各部活動が積極的に参加した。関係機関との打合せや生徒引率など、参加生徒に関わる教員も指導力を発揮している。

### 3. 生徒支援、教育相談活動の充実

#### (1) 気になる生徒の実態把握及び家庭と連携した不登校や中途退学の防止等

高校生活カード等による情報収集は本取組の発端に過ぎないことを肝に銘じ、保護者との面談により、本人や家族の「困り感」に寄り添うサポートを教員は心がけている。心的要因によると思われる不登校で中途退学(全員が通信制へ転学)した生徒は1年で3人(いずれも中学時代に不登校を経験)、他学年では「0」。不登校を認定し、特別措置を取った生徒5人(アシストコース：2年3人、アシストコース・美術コース：1年2人)は全員進級した。

#### (2) 情報共有化による効果的な教育相談の充実

SC(スクールカウンセラー)の利用状況：

相談案件39件(1年28件、2年9件、3年2件)

相談者内訳(生徒12件、保護者7件、教職員26件)

相談については不登校が最も多く、高校進学動機付けがなされないまま入学していることが背景にある。その次が発達障害。特性がベースにあって、その延長上にストレスをため込んでうえでの問題行動へとつながっていることがSCから指摘された。問題が生起する前に小さな支援を入れることで適応がよくなることを意識したい。

生徒サポート部主任が窓口となり、SCと担任との情報交換の場がスムーズに持てるようになり、学年主任・担任だけでなく教職員全体での連携・情報の共有が確立しつつある。

### 4. 進路指導の充実と進学実績の向上

多様な進路(就職・専門学校・大学等)への柔軟な対応

進学実績を高めるために、2・3年の総合的な学習の時間「進路研究」を活用し、進路指導部主導の時間(進路別見学会・探求型進路ガイダンス・職種から考える進学・入試制度の研究等)を定期的に確保した。大学進学希望生の多くは検定系列を受講し、漢字検定・数学検定・英語検定・ニュース検定等の受験でモチベーションを向上させた。また、アニメ・イラスト系列及び美術部からは、今年度も2人の芸大合格者を輩出した。

#### 5 5期生進路状況

就 職			進 学			そ の 他	
学校紹介	公務員	縁故自営	大 学	短期大学	専門学校	高職技専	進学準備
33	2	11	117	5	32	13	8

主な就職先：トヨタ自動車株式会社・日本製鉄株式会社・NCホールディング株式会社  
山崎製パン株式会社・日本郵便株式会社近畿支部・ダイハツ工業株式会社他

主な進学先：近畿大学・京都産業大学・東海大学・帝京大学・桃山学院大学・阪南大学  
大阪電気通信大学・大阪産業大学・日本福祉大学・大阪商業大学他

年度当初に「東大阪大学見学会」の実施等で、留学生を含め大学8人、短期大学部4人が内部推薦入学試験により入学した。

### 5. 効果的な広報活動と生徒募集活動の推進

生徒数の確保については、私立公立を問わず全高等学校が頭を悩ませている問題である。令和2年度入試では専願・併願ともに受験生が減少した。専願生の減少は入学生数の減少に直結するため最重要課題である。

〈 入試結果 〉

	志願者数		入学者数
	令和元年度	専 願	
	併 願	3 5 0	
令和2年度	専 願	1 5 7	1 6 7
	併 願	2 3 2	

(1) 柏高「らしさ」

本来1番大きな受け皿でなくてはならないキャリアアップコースの入学生徒数を増やすためには、

「スポーツの柏高」+ $\alpha$ が必要である。以下の企画やイベントへの参加が柏高の+ $\alpha$ の「らしさ」につながるよう努めた。

「第1回村上学園合同フェスタ」には、教職員中心に生徒・学生たちの力も借りながら参加した。準備段階から各学校園がワンチームとなって活動し、大成功を収めた。

「夏休みこども体験教室」では、143人の子供たちの歓声が柏原校地内のあちこちであがっていた。ペットボトルロケット制作は今年も1番人気のプログラムで、完成したロケットが前庭の芝生を越えて飛んでいた。

新市庁舎建設のため、柏原市役所駐車場から大和川河川敷にスクリーンを移したスターナイトシアターでは、本校は夜店(消しゴムすくい)を出店した。映画上映中も多くの子供たちが来店し好評だった。



4年前から本校が会場を提供している「あつまれ元気っ子サマースクール」(柏原市立小中学校教員有志とPTA役員による運営)では、小学生たちの楽しそうな声が3日間校舎内に響いた。今年度は昼休みに人工芝多目的コートを開放し、本校サッカー部の生徒とフットサルを体験した。開会式・閉会式(会場は本校食堂)には本校管理職も参加して、こどもたちを送迎してきた保護者の方にも挨拶ができた。

さらに、この企画がきっかけで知り合った公立中学校の先生方のフットサル大会が、本校人工芝多目的コートで毎年春休みに開催されていたが、新型コロナウイルスの影響で今回は中止となった。来年度も公立中学の教員が自分たちの活動の場として、柏高に足を運んでくれる機会を提供する予定である。



また、12月には東京オリンピック・パラリンピックのバドミントン男子シングルスで日本代表の座をほぼ手中にしていた常山幹太選手(本校バドミントン部OB)が来校、NHKの取材もあった。

(2) 入試広報部の充実

五ツ木書房(年2回模擬試験会場を提供)や(株)大阪進研の力を借りて、年度ごとの入試を本校向けに分析してもらっている。本校受験生の公立併願校の多くが定員割れする中で、今後どのような戦術で募集を仕掛けていくのかをデータをもとに構築しなければならない。

6. 各コースの取組みから

(1) アドバンストコース

在籍生徒の学力向上と希望受験方法に細かく対応するため、2年次からは現クラスを習熟度や文系理系、さらに受験科目ごとのクラスに編成し授業を進めた。生徒が進学を希望している大学へのキャンパス・ツアーも例年通り実施した。3年次では指定校推薦入試も視野に入



キャンパス・ツアー10/2(水)

れてはいるが、公募推薦やAO入試、一般入試の各方式を研究させて、自分に1番有利な方式で受験する機会を増やした。結果、近畿大（2名）・京都産業大・追手門学院大（4名）・桃山学院大（2名）・大阪電気通信大（2名）等に合格した。

#### （2）キャリアアップコース

自己肯定感の育成や学習意欲の向上に努めた。8つの選択系列により興味関心を引き出し、大学や専門学校との連携で専門的な知識も含め、自己のキャリアについて考えさせた。全コースの中で最もバリエーション豊富な進路決定をしているコースであり、漢検2級・英検準1級・数検2級・簿記2級などに挑戦する生徒もおり、意欲的に学習する場面も多くみられるようになった。次年度に向けて、選択科目「キャリア」で取り組んでいる基礎学力の向上を課題としたい。指定校推薦が中心ではあるが、東大阪大・四天王寺大（4人）・帝塚山大・神戸学院大・大阪経済法科大・奈良学園大・阪南大・関西福祉科学大等に17人が進学した。

#### （3）キャリアアシストコース

放課後デイサービスやこども家庭センターとも連携しながら、生徒一人一人の課題に寄り添った。中学時代に不登校を経験した生徒の中には、その影響もありコミュニケーションの苦手な生徒が多い。授業でもあえて発表の機会を頻繁に与え、グループ学習等でコミュニケーションの場面を設定した。多数の生徒が伊勢徒歩旅行に参加し、励まし合いながら完歩したことにより「やればできる」という自信をつけた。学校説明会へのボランティアや生徒会活動に参加する生徒も現れ、今後のコース生の励みとなった。



伊勢徒歩旅行風景

また、中学での遅れを取り戻すため懸命に学習した生徒は、東大阪短大・帝塚山大（2人）・大阪学院大・奈良学園大等に進学を決めた。

社会に出るために、もう少し時間を必要とする生徒は、2年次から高等職業技術専門校や職業能力開発校・職業リハビリセンターなど関係外部組織の見学や体験を重ね、各機関と密に連携しながら進路決定した。

#### （4）スポーツコース

強化部・準強化部に在籍する生徒のコースとして、文武両道、競技実績の向上をめざして、厳しい練習に耐えながら活動を展開した。なかでも、バドミントン部・空手道部・陸上競技部・スポチャン部は全国大会で活躍した。進学面では、東大阪大・東大阪短大（2人）・近畿大・追手門学院大・天理大・大阪商業大（2人）・大阪学院大（4人）・大阪産業大（2人）・大阪電通大・日本福祉大・阪南大（3人）・びわこ成蹊スポーツ大（3人）等、多数の大学に合格。就職面では、トヨタ自動車・日本製鉄・山崎製パン・きんでん・ダイハツ工業・十川ゴム等の有名企業で内定を勝ち取った。



スポーツコース 「ダブルダッチ」

### 3 財務の概要

別添 平成31年度	資金収支計算書	
	事業活動収支計算書	
	貸借対照表	
	財産目録	
	監査報告書	参照